

## 特殊詐欺の認知状況（令和元年中）

～前年に比べ、認知件数は減少したが、被害総額は増加～

### 1 県内の特殊詐欺の認知状況（令和元年中）

- 被害認知件数は**36件**（前年比－16件）
- 被害額は**約2億584万円**（前年比＋9,821万円）

### 2 令和元年12月の認知状況

- 被害認知件数は4件（前年同月比±0件）
- 被害額は約750万円（前年同月比－約390万円）
- 手口は次のとおりです。
  - ・オレオレ詐欺（その他の名目） 2件
  - ・架空料金請求詐欺（有料サイト利用料金等名目） 1件
  - ・融資保証金詐欺 1件

### 3 県内の特殊詐欺の傾向（令和元年中）

認知件数は前年より減少しましたが、高齢者の高額被害が連続したため、被害総額は倍増しました。

手口別では、架空料金請求詐欺が20件で最も多く、令和元年8月以降は、それまで減少傾向にあったオレオレ詐欺が増加に転じ、8件（前年比＋4件）を認知しました。

このほか、電話でだまされた被害者方に受け子が赴き、被害者の隙を見てキャッシュカードを事前に準備していたポイントカードなどにすり替えて盗む「キャッシュカード詐欺盗」が全国的に増加し、本県においても同手口による被害を2件（前年比＋1件）認知しました。

### 4 被害状況など

～被害者の年齢・性別構成～

年齢	令和元年中(人)		
	男性	女性	計
19以下	-	-	-
20～29	-	-	-
30～39	4	1	5
40～49	1	1	2
50～59	3	1	4
60～64	2	2	4
65～69	1	2	3
70～79	4	6	10
80～89	2	4	6
90以上	-	2	2
合計	17	19	36
うち65歳以上の高齢者	7	14	21

～特殊詐欺全体の被害金交付形態～

交付形態	令和元年中
	件数
振込型 （犯人が指定する口座に振り込ませる）	10
現金手交型 （犯人が直接現金を受け取る）	5
現金送付型 （郵便や宅配便などで現金を送らせる）	4
電子マネー型(コンビニで電子マネーを購入させる)	10
キャッシュカード受取型	5
収納代行利用型(コンビニ決済)	-
キャッシュカード窃取型	2
合計	36

### 5 特殊詐欺の分類変更について

本年1月1日以降、特殊詐欺の分類が10分類に変更されました。詳細については、別添のとおりです。

## 特殊詐欺の分類変更

旧	新（令和2年1月1日～）
オレオレ詐欺	オレオレ詐欺（変更なし）
	預貯金詐欺 ※（新設）
架空請求詐欺	架空料金請求詐欺
還付金等詐欺	還付金詐欺
融資保証金詐欺	融資保証金詐欺（変更なし）
金融商品等取引名目	金融商品詐欺
ギャンブル必勝法情報提供名目	ギャンブル詐欺
異性との交際あっせん名目	交際あっせん詐欺
その他の名目	その他の特殊詐欺
窃盗	キャッシュカード詐欺盗

- ※ 預貯金詐欺とは・・・  
親族、警察官、弁護士等を装い、「あなたの口座が犯罪に利用されており、キャッシュカードの交換手続きが必要である」などの名目で、キャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取る（脅し取る）もの